



関西学院大学リポジトリ

Kwansei Gakuin University Repository

## 人間関係をゲーム理論的に考える

著者	猪野 弘明
雑誌名	エコノフォーラム21 : 学生と教職員のインターコミュニケーション誌
号	25
ページ	41-41
発行年	2019-03-14
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10236/00027841">http://hdl.handle.net/10236/00027841</a>

2018年  
6月19日  
火曜日

# 人間関係をゲーム理論的に考える

猪野 弘明 准教授（産業組織論）

米朝会談後6月12日に、米大統領のドナルド・トランプ氏は「戦争は誰でもできるが、最も勇気ある者だけが平和をもたらすことができる」と述べました。この言葉には「勇気をもって核を放棄せよ、さもなければ戦争するぞ」というビジネスの世界に生きてきたトランプ大統領らしい戦略的なメッセージが込められていたとも解釈できます。このように、強く出て相手の譲歩を誘う行動は、投資戦略ではTop Dog戦略として知られています。人間関係で考えるなら、勝ち誇った怖い犬のような人を思い浮かべてください。このような戦略は、相手にとってタフなキャラクターとして定着しているならうまく働くかもしれませんが、それだけで常に大丈夫でしょうか。

Top Dogのネーミングは投資戦略をゲーム理論的に分類したジャン・ティロールとドリュール・フューデンバーグの論文（前者は2014年ノーベル賞受賞）に由来しています。実は、この論文では、各種状況下でどのような戦略が最適かを分析し、Top Dogを含め4つの戦略の類型があることを数学的に示しています。

その分析によると、Top Dog戦略がうまくいくのは、過剰にタフになり競争優位に立つことで得をする構造にあるからです。そして、そのような行動が優位をもたらすのは、攻撃的になれば譲る（逆に受容的になればつけあがる）相手だからです。このように相手が逆の反応をする戦略環境のことを、ゲーム理論では「戦略的代替」と呼びます。つまりTop Dog戦略がうまくいくには二つの要素が裏にあることが分かります。第一に行動の種類がタフであること、

第二に環境が戦略的代替であることです。

このため、これら二つの要素の組み合わせで2×2＝4種類に状況を分類でき、各々に最適な戦略が発生するのです。例えば、Top Dogの真逆の状況として、行動の種類がソフトかつ環境が戦略的補完である場合には、最適戦略はPuppy Dog戦略となります。太って満ち足りた猫のような人を思い浮かべてください。「戦略的補完」とは、代替とは逆に、相手が同じ反応をする戦略環境のことで、このような場合は受容には受容で応えてくれる（逆に攻撃には攻撃を返してくる）相手なので、過剰にソフトになつて競争を緩和することを得になるというわけです。

同様にと考えると、同じ反応をする相手（戦略的補完）にはタフな行動は過少にするのが得で、Puppy Dog

戦略といえます。かわいくてあざとい犬のようなキャラクターです。また、逆の反応をする相手（戦略的代替）にはソフトな行動は過少にするのが得で、Lean & Hungry戦略といえます。これは、痩せこけて危険そうな狼をイメージすると理解しやすいでしょう。

ゲーム理論的に人間関係を解釈しても、Top Dog一辺倒ではなく、可能ならば状況によって使い分けるほうが賢いようです。

Fudenberg, D. and Tirole, J. "The fat-cat effect, the puppy-dog ploy, and the lean and hungry look" *American Economic Review*, 74(2), pp.361-366, 1984.